

## イネ縞葉枯病対策も兼ねて 気温が高いうちに秋耕を実施しましょう！

### 秋耕のポイント

- 気温が低くなると、微生物の活性が低下して稲わらの分解が進みません。  
なるべく早い時期に、ほ場が十分に乾いた状態で、粗く耕起しましょう！
- 深さ15 cm以上になるように耕起しましょう！  
翌年の水稻の根域を広げることで、夏季高温でも収量の安定につながります。

### 秋耕の主な効果

- ① すき込んだ稲わらの分解を促進
    - 翌年水稻での還元害が軽減されます。
    - 代かきや移植作業がしやすくなります。
    - 稲わらは貴重な有機質資材のため、すき込んで地力を維持しましょう。
  - ② 病害虫の防除
    - ヒメトビウンカ、ニカメイガ、スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)、いもち病、紋枯病などの翌年の発生を軽減できます。
  - ③ 多年生雑草の防除
    - オモダカ、クログワイなどの塊茎を地表に出現させることで、乾燥・凍結させ、翌年の発生を減らせます。
  - ④ サル対策
    - ひこばえの出穂を防止し、エサ場価値を減らすことで冬場のサルの出没を防ぎます。
- ☆他にも混種対策(翌年の裸地生えの軽減)や、メタンガスの発生抑制にも効果的です。

### イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)防除情報発表 (R6.10.8 滋賀県病害虫防除所)

- 病害虫防除所による調査では、「ひこばえ」での縞葉枯病の発生は、令和4年以降、湖東地域でも多くなっています。
- 稲株の早期すき込み、畦畔雑草の刈り取りにより、ヒメトビウンカの越冬場所を減らしましょう！
- 本年、イネ縞葉枯病の発生が多かったほ場や地域では、翌年水稻作でウンカ類に効果がある箱施用剤の使用を検討してください！



ひこばえでの発病株

詳細は10月8日発表の防除情報第4号を参照ください⇒

